

「事業名：福島社会イノベーション創造事業」

早稲田大学 連携市町村：福島県双葉郡広野町

現地拠点：福島県双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3 ニツ沼総合公園管理棟

事業のポイント

- ・「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)」の具体化を通じて、「復興と廃炉の両立」が可能な地域社会の将来像の構築
- ・原子力災害からの創造的復興を通じた持続可能な社会を形成する社会イノベーションの創造と災害文化形成モデルの研究開発
- ・原発事故と原子力災害の教訓を活かした学術文化の新しい「知の拠点」のあり方の研究
- ・一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的に学びに活かすプラットフォームの構築と「社会イノベーション」の人材育成

人材育成目標

- ① 高大連携による人材地域還流ロールモデル構築（地域の小中学・高校から大学生世代）
- ② 地域の多様な主体の共創「学びの場」構築（地域の住民・企業人・自治体職員など）
- ③ 学生が福島を「学びの場」とするカリキュラム構築（地域外の高校生・大学生世代）

2022年度の活動内容

【SI構想実現に向けた3つの研究会中心の活動】

①研究者中心の研究会（調査・検討）、②地域対話（参加者限定・クローズド）、③実証実践（パイロットモデル構築）

➡研究成果の共有・議論：ふくしま学（楽）会およびシンポジウム等

➡人材育成：高校生への専門家による直接指導、地域リーダー養成ワークショップ等の実施

(1) 1F廃炉の先研究会

①：1F廃炉プロセスと地域社会との関係および1F廃炉の将来像の多様な選択肢について研究調査

②：1F廃炉の先研究会に関連する「対話の場」=「学びの場」づくり、高校生向け連続講座（配信：市民にも還元）

(2) 国際芸術・学術拠点構想研究会（A&S研究会）

①：エコ・ミュージアム構想・基本調査、原子力災害の記録・知識・記憶（RK&M）の継承に関する調査

②③：エコミュージアム構想の実証実践、国際教育研究拠点のあり方について議論

(3) 創造的復興研究会

①：創造的復興に関する「スモール・ビジネス起業調査」「災害遺構の保存調査研究事業（世界遺産登録調査）」

②：大熊町（もしくは浪江町）をフィールドにし、多様な住民参加による立場を超えた対話と熟議を実践

取り組みによって得られる成果

- ・福島復興における地域再生と社会イノベーション創造モデルの明確化
- ・ふるさと創生学における多世代・多地域・多分野の共創と社会イノベーション人材育成
- ・多様な主体の広域連携の構築と帰還困難区域への地域再生モデルの波及

